

AGU NEWS 青山学院大学

Vol.
9

AGUニュース第9号
[2001年10~11月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



ガウチャーメモリアルホール(青山キャンパス)

特集

ガウチャーメモリアルホールが完成 新しい強磁性体CaB₂C₂の発見

2003年4月開学「相模原キャンパス」

—移転年度・キャンパス名称決定—

—キャンパス施設紹介—

緑が丘グラウンド始動



TOPICS

専門大学院国際マネジメント専攻
修士課程評議委員会開催
青山学院大学のロースクール構想

報告・お知らせ

文学部に転学科制度を導入
2001年度オープンキャンパス
青山学院大学後援会報告
2001年度就職関係行事
誌上公開講座 Vol.9
「身近になったe-business」

INFORMATION

高校1・2年生のための新キャンパス説明会



特集

ガウチャー・メモリアル・ホール完成

9月25日より新しいチャペルでの礼拝がスタート。
そこで学院宗教部長の鈴木有郷先生に、
新しい礼拝堂がこれから担う役割などについて
お話をうかがいました。



宗教部長 鈴木有郷
(文学部教授)

21世紀の青山キャンパスのシンボル

青山キャンパスの中心部にオープンしたガウチャー・メモリアル・ホールは、キリスト教を基盤とする本学の新しいシンボルです。13階建ての3階以上のフロアが教育・研究施設となっている近代的な高層建築でありながら、外観はあくまでもチャペルの持つ厳かな雰囲気を大切にしています。そしてチャペルの上に、教育研究の場が設けられているという建物の構造自体も、きわめて象徴的です。これは「信は知の土台なり」という本学の教育姿勢を表しており、決して知識至上主義に陥らず、人間の尊厳や精神性を踏まえた深みのある教養と専門教育・研究を志向し、人

類の平和に貢献する人間を育成する……
21世紀を迎えた今、この新しいキャンパスのシンボルタワーがそうした本学の教育の基盤を、あらためて見直していく場になればと考えています。

開かれたチャペルをめざして

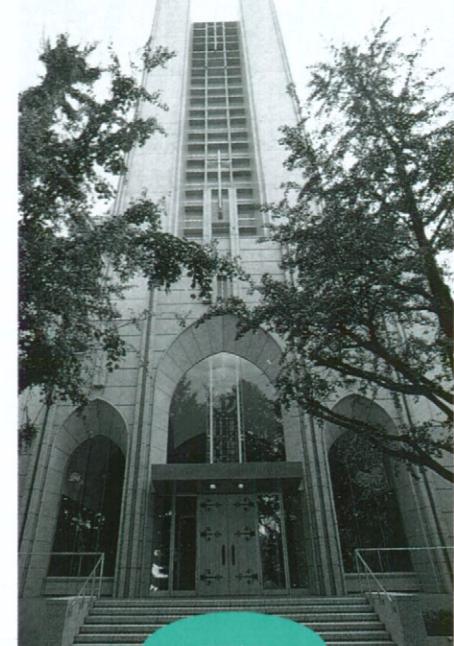
1~2階が吹き抜けになっている「ガウチャー記念礼拝堂」内部は、礼拝の場にふさわしい厳かな雰囲気を大切にすると共に、オルガンコンサートの開催や宗教劇などの上演といった礼拝以外の用途も考慮して、最新の音響・照明設備を完備。礼拝堂講壇には、これからマティス社製のパイプオルガンが設置される予定で、来年早々、イスラエルの方々が来日し、2002年5月中旬の完成を目指して組立がスタートします。また、チャペルの外に設けられた広々としたロビーは、ちょっとした絵画展などが行えるスペースになっています。今後、この新しい礼拝堂は、日々の礼拝や大学行事はもちろん、コンサートや美術展などのイベントを通して、多様な広がりを持つキリスト教文化を、本学の学生、そして近隣の住民の方々に発信していく場として積極的に活用していくことになるでしょう。世界の文化圏の人々とのコミュニケーションに欠かせないキリスト教の考え方や文化を理解するために、また、自らの生き方を静かに見つめ直す場として、ガウチャー記念礼拝堂を多くの方々に利用していただきたいと思います。こうした考え方では、2003年度に開学する相模原キャンパスの礼拝堂も同様で、2つのキャンパスの“開かれたチャペル”を通して、クリスチヤン・ユニバーシティならではの社会貢献を行っていきたいと考えています。



ガウチャー記念礼拝堂



1~3階を結ぶエスカレーター



正面玄関



2000年4月



2000年7月



2000年11月



2001年1月

ガウチャー・メモリアル・ホール フロア案内

13	研究室 Executive Meeting Room
12	研究室 史学科合同研究室
11	研究室 フランス文学科合同研究室
10	研究室
9	研究室 英米文学科研究室
8	研究室 判例研究資料室 講義準備室
7	研究室 法学会研究室 法学部資料室
6	FLL自習室 FLL事務室 AVスタジオ
5	教室 第13会議室
4	教室
3	教室
2	礼拝堂2階席
1	礼拝堂 管理室(受付)
B1	駐車場



2001年5月
完成

2001年7月

2001年9月

新しい強磁性体CaB₂C₂の発見

2001年2月、新しい金属系高温超伝導体の発見で、世界中を驚かせた理工学部物理学科の秋光純教授。そしてこの夏、秋光教授らの研究グループが従来の物理学の常識を覆す新しい強磁性体を発見しました。再び世界的に大きな注目を浴びることになった秋光教授に今回の発見の意義や発見の経過について、お話をうかがいました。

高温超電導物質発見に続く快挙

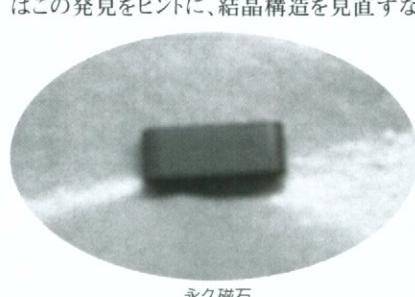
単独では磁石にならないはずの物質を組み合わせると、なぜか磁石になった……。これまでの物理学の常識を覆すミステリアスな物質を発見したのは、秋光教授と元大学院理工学研究生で現在は企業の研究員である竹縄顕司さん、そして東北大などの共同研究グループ。8月10日発行のアメリカの科学誌『サイエンス』にその研究成果が発表され、世界中の研究者から注目を集めています。

磁性を持つ代表的な元素として知られているのは、鉄やニッケル、コバルトなど。その中でも、磁場をかけなくても自発的に磁化し、永久磁石になる物質を強磁性体と呼んでいます。

今回、秋光教授と竹縄さんたちが発見したものこの強磁性体で、カルシウム(Ca)と炭素(C)、ホウ素(B)をそれぞれ1対2対2の割合で組み合わせた化合物「カルシウム・ポロカーバイド(CaB₂C₂)」。物質の温度を上げる

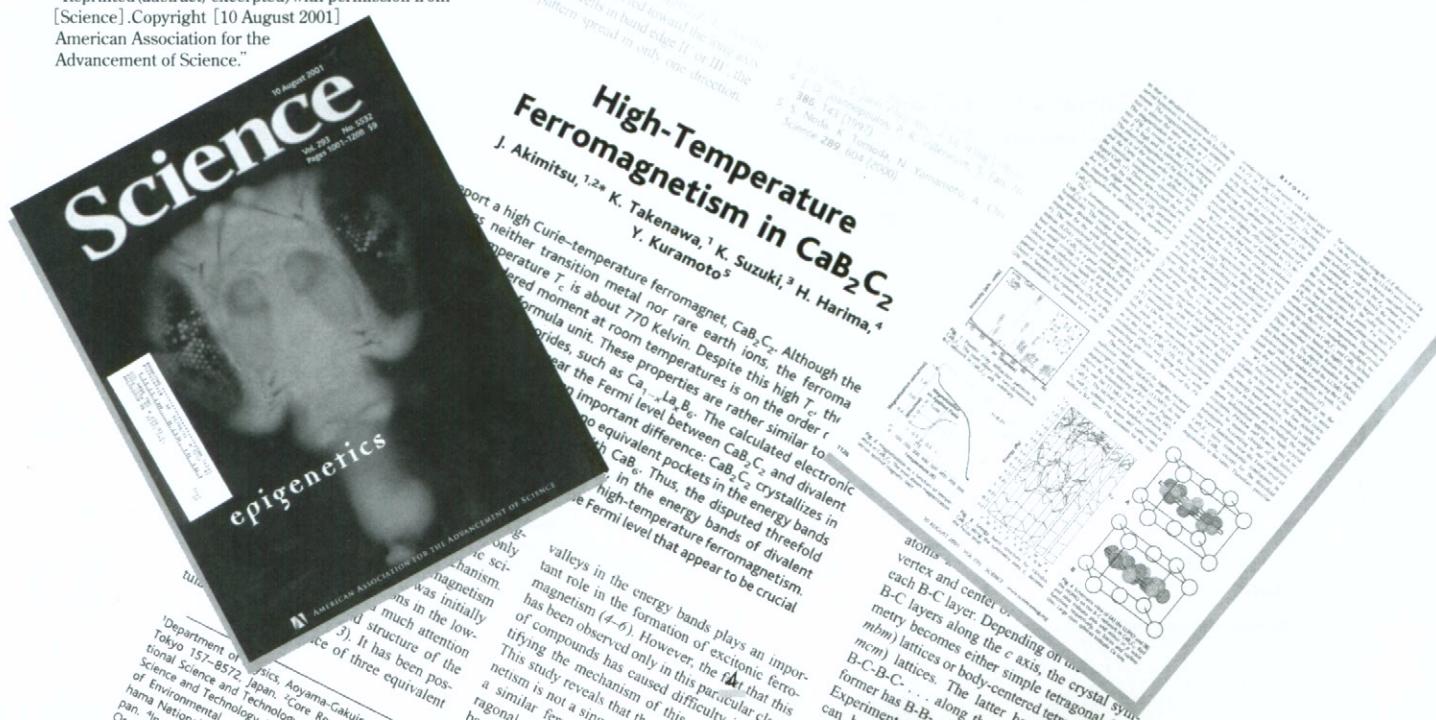
と、磁性の要因である電子の方向性が乱れるために磁性は弱くなりますが、新しい強磁性体は摂氏約500度(絶対温度770K)の高温まで永久磁石の性質が保たれることができます。

「実は、1999年にアメリカ・フロリダ州立大学などの研究グループが、カルシウム、ランタン、ホウ素を組み合わせた強磁性体を発見し、物理学会が大騒ぎになったことがあります。しかし、これほどの高温に耐えられませんでしたし、不純物元素の混入などの指摘もあり、研究成果に対する論争がありました。私たちはこの発見をヒントに、結晶構造を見直すな



永久磁石

"Reprinted(adstract/excerpted)with permission from [Science].Copyright [10 August 2001] American Association for the Advancement of Science."



理工学部物理学科
秋光 純 教授
先端技術研究開発センター所長

として、より一般的な現象として高温強磁性を持つ物質を創り出したんです」

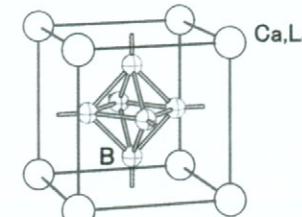
新しい物理学の扉を開く鍵に

いずれも磁性を持たない3つの元素を組み合わせるとなぜ強磁性を持つようになるのか……。これまでの物理学では説明できないそのメカニズムを解き明かすためには、従来の常識を越えた新理論が必要です。新物質発見後、欧米や日本などで、大勢の研究者がそのメカニズム解明に関わる論文を競って執筆しています。

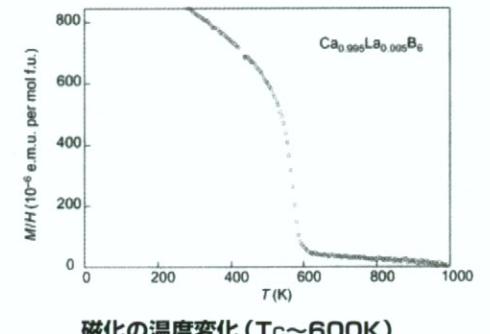
「どうやら3つの元素のうちホウ素が強磁性の性質を示しているようなんです。このホウ素という元素は、やはり私たちが発表した高温超伝導物質である二ホウ化マグネシウム(MgB₂)にも含まれていますが、私は新しい物理学のキーワードとなる物質であるとらんでいます」

高温超伝導物質である二ホウ化マグネシウムは、世界で大きなセンセーションを巻き起こしましたが、今回のカルシウム・ポロカーバイ

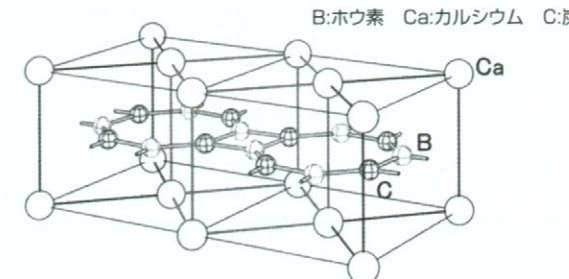
1999年、アメリカのグループが発見した物質(左)をヒントに、より高温にも耐える「カルシウム・ポロカーバイド(CaB₂C₂)」(右)を発見



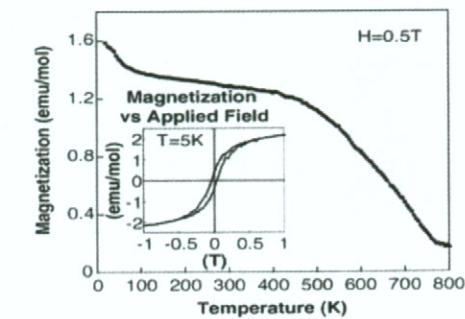
結晶構造



磁化の温度変化 (Tc~600K)



結晶構造



磁化の温度変化 (Tc~770K)

ドの発見は、ある意味でさらに大きな可能性を秘めていると秋光教授は考えています。「超伝導と強磁性は、いずれも電子のスピン(自転)が関係していると思われる物理現象ですが、私はこのふたつのメカニズムが密接に結びついているのではないかと予想しています。今回の発見は、将来的に新しい物理学の扉を開く鍵になるのではないかでしょうか」

ついに新しい物質を求めて

「固体物理の研究者として、物理的に興味のある新しいモノを探索するのが、私の使命だと思います。なぜなら新しい物質には、必ず新しい物理現象の芽があるのですから」

物理学の研究の中でも、ある意味で物質

探索は最も困難が伴う分野といえるかもしれません。先が見えない状態の中、存在するかどうかさえ確かではない新物質を探すのは、正直言ってシンドイこともあると秋光教授は言います。

「でも、だからこそおもしろい。そして、発見の喜びを手にしたら、また新しい物質・物理現象を求めて、私たちは探索を始めるのです。ホウ素というごく一般的な元素にたどりついた新しい高温超伝導体と強磁性体の発見は、ちょうどメーテルリンクの『青い鳥』のお話のように、さんざん遠くまで探しに行った挙げ句、ごく身近な所に大きな発見があった……ということかもしれません。研究・実験に

は、運や偶然があることも確かです。でも、遠くまで出掛ける長い旅をする努力を怠っては、決してすぐそばにある『青い鳥』を見つけることはできないんです」

教育者としての秋光教授は、「地に足が着いた志を持って学ぶ学生を育てる」ことを目標にしているそうです。そして、自分が研究で大きな成果をあげることで、「青山学院大学で学ぶ学生たちを励ましていきたい」とも語ってくれました。高温超伝導や強磁性に関わる秋光教授の物質探索の旅は、まだまだ続きそうですね。



▲8月3日(金)、青山キャンパス総合研究所ビルでの記者会見



▲共同研究グループ 左から
横浜国立大学大学院環境情報研究院 鈴木和也 助教授
大阪大学産業科学研究所 植磨尚朝 助教授
東北大学大学院理学研究科 倉本義夫 教授
本学理工学部物理学科 秋光純 教授

① 澤邊厚仁教授、新型磁気ヘッド開発で「恩賜発明賞」受賞

朝日新聞(夕)5月14日付にて掲載

科学技術の向上や産業振興を目指した全国発明表彰(主催:社団法人発明協会、後援:朝日新聞社、文部科学省、経済産業省、特許庁など)。特に功績が大きい発明者に贈られる恩賜発明賞が、2001年度は「HDD(ハードディスクドライブ)の大容量化を実現する巨大磁気抵抗効果型磁気ヘッド」を開発した本学理工学部電気電子工学科澤邊厚仁教授のほか、5名の研究者に授与されました。



理工学部電気電子工学科
澤邊厚仁 教授

澤邊教授は、株式会社東芝の研究員として長年活躍してきた経歴を持ち、今回受賞した“発明”は東芝在籍中にスタートしたもの。まず、教授自身に、今回の受賞を果たした「巨大磁気抵抗効果型磁気ヘッド」開発の総括を説明していただきましょう。

「パソコンなどの記録媒体として使われているハードディスクドライブ(以下、HDD)はご存じですね。私たちが開発

を始めた90年代には、HDDの容量は1平方インチ当たり1~2ギガバイトが限界とされていました。ディスクそのものの記録密度を増やすことは可能なのですが、その高密度に記憶された情報を読み取ることができる高感度のヘッドを開発することが難しかったからです。そのため、当時、パソコンなどの記録媒体としてHDDの時代はそれほど長くは続かないだろうと考えられていました。当時、アメリカの



HDDの概略図
磁気ヘッド
磁気ディスク
モーター部分

不足。次世代HDDへの道程を拓くためには、磁気ヘッドのさらなる高感度化が求められていたのです。

澤邊教授ら開発プロジェクトスタッフは、まず磁気ヘッドに使う材料の研究からスタート。1988年にドイツで発見されたGMR(巨大磁気抵抗効果)という新しい物理現象に着目しました。これはナノ(10億分の1)メートルレベルの厚さの金属を重ねると、巨大な磁気抵抗効果が生じ、磁気抵抗の変化率が大きくなるというもの。この現象を利用すれば、ディスクに書き込まれた高密度情報のわずかな磁気の変化で電気抵抗が変化し、それに対応して電気の流れ方も変化……つまり、高密度情報を読み取ることができるわけです。研究を重ねていくと、材料としてコバルト鉄の結晶方向を揃えた磁性膜を用いると、磁気ヘッドの感度が飛躍的に向上することがわかつきました。コバルト鉄は比較的安価な材料なので、商品化にあたってのコストも問題ありません。

「開発にあたって、当初社内の賛同を得られず、プロジェクトリーダーの佐橋政司さん(現・株式会社東芝 研究開発センター技監)が中心となって、熱意を持って会社の上層部を説得しました。でも、そんな私たち自身も不安を抱いていたんです。なにしろ開発チームには、誰一人として磁気ヘッドの専門家といえる人間はおらず、私も薄膜など材料を専門とする研究者でした。だから、全員が磁気ヘッ

ドのメカニズムを専門書を読みながら勉強して、開発に取り組んでいたんです。でも、素人だったからこそ、従来の常識にとらわれず、新しい発想ができたともいえるかもしれません」

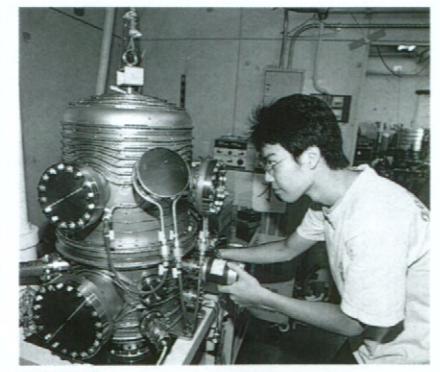
しかし、研究開発にあまり時間と経費ばかり費やしていると、社内における開発プロジェクト自体の存続が危うくなる。また、同時にIBM社がやはり新型ヘッドの開発に取り組んでいるという情報も伝えられた……。時間との闘いの中、当時30~40代だった開発スタッフは、睡眠時間を削って仕事に取り組みました。泊まりがけで研究に没頭することも珍しくなく、澤邊教授によると開発現場は「まさに修羅場のよう」だったとのこと。

「NHKの『プロジェクトX』という番組がありますね。毎回、執念を燃やしながら、新しい技術開発や事業に挑む人々が登場しますが、私たちのプロジェクトもまさにあんな感じでした。あの番組を見ると、私はいつも『うんうん、そななんだよな』と共感しています」

そして1994年、ついに最初の試作品が完成。現在、30ギガバイトまで商品化が進んでおり、近い将来には100ギガバイト以上の商品が登場する予定です。ちなみに100ギガバイトという容量は、テキストデータに換算すると富士山の高さに積み上げられたA4用紙に書かれた文字情報に匹敵し、動画でも120分のVHSビデオテープ約20本分に相当します。「巨大磁気抵抗効果型磁気ヘッド」は、HDDの記録密度の限界を突破することに成功したのです。

この新型磁気ヘッドによって実現したコンパクトで大容量の次世代HDDは瞬く間に普及し、今やIT社会を支える基盤技術となっています。パソコンはもちろん、新型モバイル端末のほぼ100パーセントに使われており、将来、携帯電話、ハイテク家電や自動車のナビゲーションシステムなどへの応用も期待されるなど、用途は拡大。今後、新型磁気ヘッド開発によって新市場が立ち上がり、HDDの販売高が100兆円規模までに拡大発展すると、市場アナリストは予測しています。

「実は、こんなに急激に新型磁気ヘッドが世の中に普及するとは、開発に当たっていた私たち自身も予想していなかったことです。まさに世界中で使われる製品を手掛けた訳ですから、研究者としてこれ以上の幸せはありません。しかし、もう一度、あの技術開発の修羅場を経験しこと/or>いわれたら……うへん、どうしましようか(笑)。でも、苦難を乗り越えての感動と達成感は、今、私が教えている学生たちにもぜひ味わってほしいと思っています」



澤邊研究室

② 重里有三教授、「光触媒」の応用範囲が広がる画期的な「スパッタ法」開発

毎日新聞7月2日付、日刊工業新聞8月23日付にて掲載



理工学部化学科
重里有三 教授

「光触媒」と呼ばれる作用が発見されたのは、今から30年ほど前のこと。特定の物質に強い光を当てると、特殊な光化学反応を示す……ちょうど植物の葉緑体が、太陽光線を受けることで二酸化炭素と水から、酸素と炭化水素を生成する「光合成」反応に似ていますが、いわば光触媒とは人工的な「光合成」といえるかもしれません。

たとえば、酸化チタンに紫外線を当てると、強烈な酸化作用を持つ活性酸素が発生。その強力な酸化力(太陽光線の場合、大気中摂氏3万度の燃焼に相当)を利用して、表面の汚れや微生物などの有機物を分解することができ、さらに表面が変化して「超親水性(ハイドロフィリッシュティー)」を持つことがわかっています。こうした光触媒の性質を利用して、これまでに清掃不要の高速道路の街灯、病院の抗菌タイル、曇らない自動車のドアミラーなどの製品が開発されてきました。今後、期待されているのが建築物の窓ガラスなど、大面積を持つ材料への応用。たとえば高層ビルの壁面ガラスに光触媒薄膜をコーティングした窓ガラスを使えば、太陽光を浴びるだけで自然に汚れが取れ、危険な高所での窓拭き作業が不要になります。

しかし、酸化チタンを含む液剤を材料の表面に塗り、焼き固める従来の方法では、皮膜の厚みにムラが生じたり、また耐久性の面で問題が多く実用化が難しいと考えられていました。

今年、そんな光触媒応用の分野における“ブレークスルー”を成し遂げたのが、本学理工学部化学科の重里有三教授。「スパッタ」と呼

ばれる半導体薄膜を製造する装置を使って、光触媒用酸化チタン膜の生成する画期的な方法を開発しました。

従来、このスパッタ法で酸化チタンの薄膜を生成すると、なぜか光触媒機能は見られませんでした。しかし、重里教授は光触媒のメカニズムを徹底的に明らかにすることにより、スパッタ法で高い光活性度を持つ酸化チタン薄膜を合成することに成功。もうひとつ、スパッタ法には、成膜速度が遅いため製造コストが高くなるという問題もありましたが、ドイツの国立研究所(FEP)との共同研究による最新のプロセスを用いることで、従来の方法より成膜速度が数十倍速い合成方法を確立。実用的な酸化チタンのスパッタ成膜法の開発に世界で初めて成功しました。

すでにこの手法を使って、自動車や列車のフロントガラスやビル用のガラスの製造に着手する企業が出ており、日本国内やヨーロッパからも重里教授のもとにも問い合わせが殺到しています。

専門家によると、大面積の光触媒薄膜のマーケットはざっと数千億円の規模といわれており、生活中にあふれている可視光で光触媒作用を起こすことができれば、一挙に1兆円規模に拡大するとも試算されています。現在、重里研究室では、教授をはじめ大学院生や4年生が、弱い光や可視光でも反応する新しい光触媒材料の研究に取り組んでおり、研究室より再びビッグニュースが飛び出します。重里研究室特製のスパッタ装置。操作しているのは大学院博士前期課程1年生の入江由季子さん



③ 橋本修教授、ノイズ電波をシャットアウトする「4分の1(ラムダ)型電波吸収体」の薄型化に成功

日刊工業新聞6月28日/7月11日/7月30日付、朝日新聞(夕)7月9日付にて掲載



理工学部電気電子工学科
橋本修 教授

携帯電話をはじめとする電子通信機器の普及によって、私たちの生活環境には無数の電波が飛び交うようになりました。今後、室内無線LANや電子化された交通システムなどが増加し、住環境やオフィス、町中などにさらにさまざまなタイプの電波が登場。こうした電波は私たちの生活や仕事を便利にしてくれる一方で、他の電子機器の誤動作を引き起こしたり、さまざまなもので電波障害を発生させたりと、目に見えない“いたずら”を引き起こしています。そして中には、“いたずら”ではすまされない深刻な事態となることもあります。そうした私たちの暮らしの中における“電波環境問題”を解決してくれる強い味方が電波吸収体。そのルーツをたどると、第2次世界大戦中、潜水艦が敵国のレーダーに捕捉されることを防ぐために開発されたといわれています。これまで高層ビルにテレビ電波が反射して画像が乱れるゴースト現象への対策としても使われてきましたが、不必要な電波を吸収してくれる電波吸収体は、高度情報通信社会の発展とともに私たちの生活にさらに身近なものとなってくるでしょう。

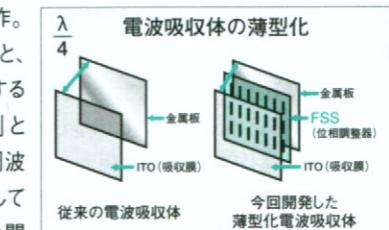
現在注目されているのは、特定の電波だけを吸収し、それ以外は透過する性質を持つもの。たとえば、将来増加する無線LANを使うオフィスで、ノイズ電波による送信エラーを防止しながら、携帯電話の通話は可能な壁材などとして使える電波吸収体です。

特に有望視されているのは、「4分の1(ラムダ)型電波吸収体」で、「λ」とは波長を表します。この吸収体は、金属板と吸収膜の2層構造と単

純な構造で、設計もきわめて簡単。素材的に見ても建材に組み込みやすいというメリットがあります。ただし、その原理上、吸収体の厚みが波長の4分の1の距離にしなければならないので、波長が長い帯域では薄型化ができないという面がありました。

しかし、本学理工学部電気電子工学科の橋本教授は、金属板と吸収膜の間に、対象周波数に適した位置に金属パターンを配したFSS(位相調整器)を挿入した3層構造とすることで、吸収体を波長4分の1以下の厚みにすることに成功。たとえば、衛星放送などで使われる10GHz帯用の吸収体は、従来のタイプでは厚さが7.5mmでしたが、今回試作された吸収体では3.77mmと半分になったのです。ちなみに試作品のFSSの金属パターンは研究室の学生たちが電磁界シミュレーションにより設計した力作。

「この着想を応用していくと、吸収体を極限的に薄くすることも可能(橋本教授)」ということで、今後FSSの周波数特性などをさらに検討していく、より薄い吸収体の開発を行っていく予定とのことです。このほか橋本教授は、ベンキのように塗れる液状のもの、ガラスのように透明なもの、紙状のもの……などさまざまなタイプの電波吸収体の試作、実用化を行っています。また、電磁波が人体に与える影響なども研究。電波と私たちの生活に関する多彩なテーマに取り組んでいます。



専門大学院国際マネジメント専攻修士課程評議委員会を開催



国際マネジメント研究科長

伊藤文雄 教授 2001年4月、国内の私立大学で初めての専門大学院「国際マネジメント研究科(Graduate School of International Management)」開設。学部卒業生、中堅ビジネスマン、さらには企業経営陣といった、バックグラウンドの異なる人々に対する「高度専門職業人養成」に特化した昼夜開講制の“ビジネススクール”が、青山学院大学に誕生しました。そのスタートから約3ヶ月を経た6月30日(土)午前10時30分より、青山キャンパス9号館932教室(Auditorium for Global Classroom)にて、「2001年度専門大学院国際マネジメント専攻修士課程評議委員会」(以下、評議委員会)が開催されました。これは、国際マネジメント研究科の教育・研究活動などに対する外部評価を行うことを目的としたもので、外部の評議委員として21名が参加。そのメンバーは、青木利晴氏[(株)NTTデータ社長]、古川享氏[マイクロソフト(株)副社長]、出井伸之氏[ソニー(株)会長兼CEO]、野村哲也氏[清水建設(株)社長]、岡村正氏[(株)東芝社長]、八城政基氏[(株)新生銀行社長]ら、わが国を代表するトップマネジメントのほか、カーネギーメロン大学、テキサス大学、ノースカロライナ大学(以上、アメリカ)、復旦大学(中国)、高麗大学(韓国)、モスクワ大学(ロシア)、シンガポール国立大学、マルチメディア大学(マレーシア)など、世界各国から集まってきたビジネススクール関係者の名が並んでいます。

当日の司会を務めた伊藤文雄教授(国際マネジメント研究科長)は、今回の評議委員会の目的と趣旨を、次のように語っています。「1998年に大学審議会答申の提言に基づく専門大学院は、グローバルな人材育成のために高度な専門知識・能力の育成に特化した実践的な教育を行う大学院として位置付けられています。そしてこのような専門大学院の発展には、その教育機能、研究機能、社会貢献機能などに関する、客観的な評価が必要不可欠です。そこで、本学では学則第一条に評議委員会の設置を盛り込み、毎年6月に外部評価を行うための評議委員会の開催を定めました。この4月にスタートしたばかりの国際マネジメント研究科が、早くもこの時期に外部評価を行うことにしたのは、私たちの組織がほんとうに産業界が求める人材の育成をすることができるものなのか、そして世界のビジネススクール教育研究に伍した教育・研究ができるのかを早い時期に確かめ、必要ならば軌道修正を加え、よりよい教育研究環境づくりをしていくためです」

なお、伊藤教授があげる専門大学院の評価項目は以下の6点です。

- ・教育機能強化についての取り組み
- ・学生支援に対する取り組み
- ・研究活動の推進についての取り組み
- ・社会貢献活動についての取り組み
- ・産学連携の推進についての取り組み
- ・国際社会への貢献、および国際化についての取り組み

第1回評議委員会は、文部科学省 遠山敦子大臣のFAXメッセージ、青山学院理事長および院長による開会挨拶にはじまり、評

議委員会会長、副会長の選出が行われ、続いて伊藤研究科長による各評価項目教育研究活動の報告が行われ、各評議委員による質疑応答がなされました。

評議委員のメンバーは、今回の報告をもとにそれぞれが評価レポートを作成。その結果は世界中から伊藤研究科長のもとに届けられます。

「まだすべてのレポートが届いていませんが『よく準備された素晴らしいプレゼンテーションだった』など、第1回評議委員会の取り組みについては概ね高い評価をいただいているようです。今後、毎年6月に評議委員会を開催していくますが、これはいわば、人間の定期健康診断のようなものです。健康な身体を保つために血液検査やレントゲン撮影をするように、経済人や教育・研究者の目で、国際マネジメント研究科の実態を厳しく診断していただき、健全な組織として発展できるよう、私たちが全力を尽くしていくわけです。今回、評議委員の方々から寄せられたレポートを検討し、問題点や改善すべき点が見つかったら、来年の第2回評議委員会までに必ず解決します」

伊藤研究科長がめざすのは「グローバルスタンダードのビジネススクール」。産業界や世界のビジネススクールと密接な連携を図りながら、ボーダレスな教育研究環境の構築を目指しています。今回の評議委員会開催も、まさにそうした意気込みが十分発揮されたものだったといえるでしょう。

しかし、わが国の専門大学院の歴史はまだ始まったばかり。この分野では欧米に比べて、30年近く遅れをとっているとの声もあります。「だからこそ、できるだけ早くわが国に専門大学院の根を根付かせ、新しい高等教育の枠組みを作っていくかなければなりません。今後も社会・文化・経済のグローバル化は進展し、変化が激しく厳しい社会情勢が続くことが予想されますが、そうした状況の中でリーダーシップを持って活躍できる「高度専門職業人」を早急に養成する必要があるからです。いわば専門大学院として国際マネジメント研究科を成功させることは、青山学院大学だけの問題ではなく、わが国の将来を左右する重大な使命と認識しています」

なお、当日午後には、同じ会場で学生を対象にした「2001年度国際マネジメント講演会」も併せて開催。評議委員会の副会長に就任したばかりの八城政基[(株)新生銀行社長]の講演「わが国の産業・金融システムの再生について(The Restructuring of Japanese Industries and its Banking System)」などが行われ、多くの聴衆を集めました。



Auditorium for Global Classroom

青山学院大学
相模原
キャンパス

21世紀、 青学が変わる!!



青山学院大学 学長 半田正夫

21世紀、青山学院大学は大きく変わります。そして、その変革の大きな節目となるのが「相模原キャンパス」開学。広大な敷地を存分に活用して、新しい発想や試みを取り入れた特色あふれるキャンパスとなる予定で、現在、建設が着々と進んでいます。

新キャンパスの最大の特徴は、人と人とのコミュニケーションを重視した「文理融合型キャンパス」であること。同時に人と自然との共生を考慮しながら21世紀の循環型社会に対応した「エコキャンパス」の実現です。

●新キャンパスへの移転年度が決定

既存キャンパス（厚木、世田谷）より新キャンパスへの移転は、人文・社会科学系学部の1・2年次生とともに理工学部の大学院を

2003年4月、「相模原キャンパス」開学とともに、厚木キャンパス、世田谷キャンパスを全面移転して、本学は青山キャンパスと新キャンパスの2つのキャンパスに集約されます。すでに、具体的な建設計画がまとまり、正式名称も決定。2003年4月開学に向け、建設工事がスタートした「相模原キャンパス」について

今回は施設・設備を含め、より具体的に紹介します。

含む全学生について「2003年4月」となることも決しました。（次ページ「入学年度別就学キャンパス」表参照）これにより、名実ともに文理融合型キャンパスとしてスタートできることになります。

●新キャンパス名称決定

これまで“仮称”として使われてきた「相模原キャンパス」という名称ですが、新キャンパス名称選考委員会および青山学院理事会の承認を受け、9月末に正式名称として決定しました。名称決定に至る経緯を振り返りますと、まず学生、教職員、卒業生からインターネットなどをを利用して広く公募。集まった合計616件もの新キャンパス名称候補に対し、さらに学生、教職員、卒業生による投票を行

いました。その際、もっとも得票が多かったのが「相模原キャンパス」です。正式決定に当たっては、広告会社などで活躍中の卒業生による、専門的な見地からのアドバイスも受けています。集まった候補の中にはユニークで奇抜な名称も多数ありましたが、結局、地域名を冠したオーソドックスな命名に落ち着きました。やはり地域名を冠した青山キャンパスとの整合性、また、今後数十年、百年のスパンで親しまれていく名称であることを考えますと、今回の決定は多くの方々が満足できるものと考えています。

「相模原キャンパス」から始まる青山学院の新しい歴史にどうかご期待ください。



相模原キャンパス

東京ドームのグラウンドのおよそ12.3個分、16万平方メートル（約4万8,800坪）もの広大な敷地を有する「相模原キャンパス」。自然の地形や樹木の緑を生かしたキャンバスづくりを行っており、敷地内に建設される26棟の建物も、周辺環境との調和を考えて設計されています。

キャンパスのシンボルとなるチャペル、図書館・情報系教育の中核となるメディアセンター、少人数教育の重視を掲げ、小・中規模の教室を中心に設計された教室棟、最新のコンピュータ・ネットワーク環境の整備など、新しい教育・研究をカタチにするための教育研究施設・設備を多数設置します。これらの建物は、循環型社会に対応したエコキャンパスという考え方から、効率的な冷暖房システムを採用しているほか、外光を取り入れ人工照明を抑えたり、廊下や階段を使って換気ができるようにしたり、キャンパス全体が省エネルギー設計になっています。

また、広大な空間を生かして、ラウンジ、広場、インターネットカフェなど、学生同士・学生と教員のコミュニケーションを想定したスペースをキャンパスや建物内の随所に設けて、“学生が少しでも長くいたいと思うキャンパス”づくりを志向していることも大きな特色です。キャンパスのグランドデザインにあたっては、建物・施設配置を利用目的・用途別にいくつかのエリアにわけ、広いキャンパスにおける移動の効率化を図るゾーニングを行っているほか、メディアセンター・図書館3階に直結したエスカレーターなど、建物自体にも効率的な移動を行うための配慮も行っています。

入学年度別就学キャンパス

(○内数字は学年)

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
2000年度 入学生	文・経済・法・経営・国際政治経済学部 理工学部	①厚木 ①厚木	②厚木 ②世田谷	③青山 ③世田谷	④青山 ④相模原		
2001年度 入学生	文・経済・法・経営・国際政治経済学部 理工学部		①厚木 ①厚木	②厚木 ②世田谷	③青山 ③相模原	④青山 ④相模原	
2002年度 入学生	文・経済・法・経営・国際政治経済学部 理工学部			①厚木 ①厚木	②相模原 ②相模原	③青山 ③相模原	④青山 ④相模原
2003年度以降 入学生	文・経済・法・経営・国際政治経済学部 理工学部				①相模原 ①相模原	②相模原 ②相模原	③青山 ③相模原
						④青山 ④相模原	

●文学部心理学科(夜間主コース)および第二部(夜間部)、大学院(理工学研究科を除く)の学生の就学キャンパスは全学年「青山キャンパス」です。

●理工学研究科は、2003年度より「相模原キャンパス」へ移転します。

相模原キャンパス施設紹介

①アリーナ

バスケットボール、バレー、バドミントンなどの室内競技に対応。1階には可動式観覧席、2~3階には固定式観覧席が設置され、各種イベント利用も可能です。

②メディアセンター

図書館、情報処理系の教室、外国語ラボラトリ、共同研究室などが設置され、紙媒体、電子媒体を問わず、本学における知的情報の中核を担う建物です。また、学生生活の窓口になるスチューデントセンターも置かれています。9階には展望ラウンジが設けられます。



③チャペル

キャンパスのシンボル的存在。ほぼ中央部にありJR横浜線の車窓からも建物を望むことができます。ステンドグラス、カリオン、バイオルガンを備え、学生、そして地域の人々にも開かれたチャペルを目指しています。



④小教室棟

演習・講義に利用される小教室で構成された校舎です。授業の合間や放課後などに学生同士、教員と学生が語り合えるよう、各階にガラス張りのラウンジを設置していることも特色です。

⑤中教室棟

主として講義に利用される中教室で構成された校舎です。スチューデントプラザから2階に直結した大階段は、通路としてだけではなく憩いの空間としても利用できます。

⑥厚生棟

1階に購買会、1~2階には明るい雰囲気の学生食堂を設置。また、3~4階にはクラブ・サークル部室が並んでいます。

⑦健康管理センター

専任の医師・カウンセラーが常駐する「健康管理センター」と「学生相談センター」が設けられ、学生たちの心と身体のケアに配慮します。9階には展望ラウンジが設けられます。

⑧大型実験棟

理工学部の教育・研究には、大規模な実験研究設備が必要です。この棟には、風洞、アイソトープ、低温・恒温実験室、機械工作室など、各学科で利用される大型実験設備を集約しました。

⑨理工学部棟

3棟並んだ両側は、理工学部各学科の研究室・実験室を設置。中央の棟は、日本の科学技術をリードする研究を推進する先端技術研究開発センター(CAT)です。



⑩音楽部室棟

1階は武道場、2階は防音設備を備えた音楽系クラブ・サークルの部室、4階にはライブができるホールが設置されます。

⑪実験・研究棟

すべてのフロアに、理工学部各学科の各種実験室が設けられます。



⑫庭園

静かに散策を楽しんだり、読書にふけったり……緑に囲まれた思索と語らいの空間。



⑬寮

キャンパスに隣接した寮設備。個室を100室備えています。使途は未定ですが、留学生などの宿舎としての利用も考えています。

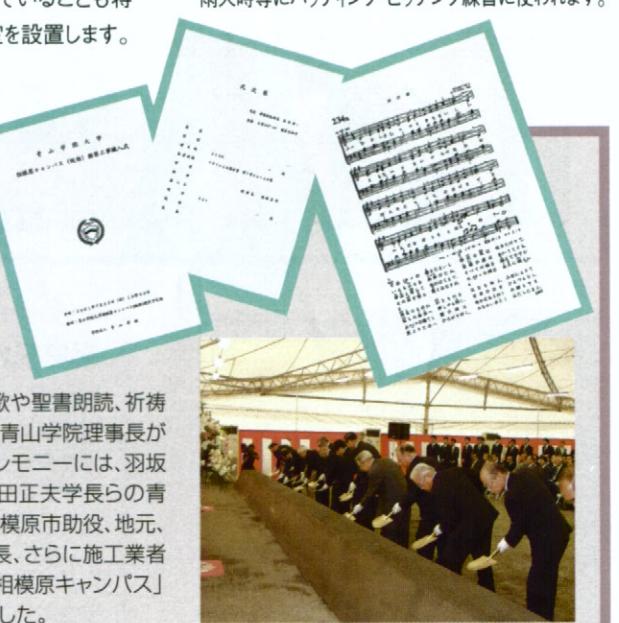
A プロムナード

正門を入っておよそ200メートル続くケヤキの並木道。相模原キャンパスのメインストリート。



鍵入式

去る7月25日(水)午後1時30分より、相模原キャンパスの新築工事鍵入式が開催されました。式は、多くの関係者を招いて建設予定地にて挙行。まず、讃美歌や聖書朗誦、祈祷が行われ、続いて羽坂勇司青山学院理事長が挨拶。そして、鍵入れのセレモニーには、羽坂理事長、深町正信院長、半田正夫学長らの青山学院代表者、山口秀夫相模原市助役、地元、大野北地区自治会連合会長、さらに施工業者の代表者が参加。全員で「相模原キャンパス」の素晴らしい船出を祈りました。



相模原キャンパス施設概要

●敷地面積／161,162m ²
●建築面積合計／36,740m ²
●延べ面積合計／112,020m ²
①アリーナ(地下1・地上3)／8,450m ²
②メディアセンター(地下1・地上9)／31,860m ²
③チャペル(地上2)／1,950m ²
④小教室(地上4)／13,260m ²
小教室(地上4)／9,520m ²
⑤中教室(地上3)／10,670m ²
⑥厚生棟(地下1・地上5)／11,990m ²
⑦健康管理センター(地上2)／4,600m ²
⑧大型実験棟(地上1)／1,540m ²
⑨理工学部棟(地下1・地上7)／26,860m ²
⑩音楽部室棟(地上4)／2,010m ²
⑪実験・研究棟(地下1・地上7)／10,520m ²
⑫文理融合棟(地上5)／11,280m ²
⑬寮(地上7)／3,480m ²
●所在地 神奈川県相模原市淵野辺5-10-1



F グラウンド

陸上トラックを備え、体育実技に利用されます。

G ゴルフ練習場

グラウンド横の広々としたスペース。主として体育実技のゴルフで利用されます。

H 野球場

主として硬式野球部の練習に使われます。観覧席も設置されます。

I 屋内練習場

雨天時等にバッティング・ピッチング練習に使われます。

MIDORIGAOKA GROUND

緑が丘グラウンド

1961年より利用されてきた「綱島総合グラウンド」に替わり、

青山学院大学のスポーツ活動の新しい拠点として、

この夏より「緑が丘グラウンド」がオープンしました。

相模原キャンパスと同じ相模原市内にある

新しい大学グラウンドのプロフィールを紹介します。



「緑が丘グラウンド」は、「相模原キャンパス」とJR横浜線の線路を挟んで反対側、相模原キャンパスからおよそ3kmの距離にあります。

「緑が丘グラウンド」の約14,000坪の敷地にはラグビー・サッカー・アメリカンフットボール・硬式テニス・ソフトテニスのグラウンドやクラブハウス・駐車場などが完備しています。

去る7月末に「緑が丘グラウンド」の名称が正式決定。すでに8月より体育会各部による新グラウンドでの練習が行われおり、新しい本学のスポーツの拠点として始動し、活躍が期待されています。



緑が丘グラウンド献納式

去る7月25日(水)10時30分より、相模原キャンパスに先立ち完成した緑が丘グラウンドの献納式が挙行されました。讃美歌斎唱、聖書朗読の後、羽坂勇司理事長の式辞、半田正夫学長の経過報告などが続き、厳かなムードの中で式典が執り行われました。



体育会所属学生によるテープカット風景



緑が丘グラウンド施設概要

- 敷地面積 / 46,087m²
- ラグビー場(天然芝) / 8,200m²
- サッカー場 / 6,400m²
- アメリカンフットボール場 / 5,300m²
- テニスコート(硬式・軟式各5面) / 6,580m²
- クラブハウス(地上2階)
- 所在地
神奈川県相模原市緑が丘2-40-1

綱島総合グラウンド閉所式

6月23日(土)に開催。会場は体育会部員のほか、長年お世話になった地域住民の方々、地元の少年野球チームなど多くの人が集まり盛況でした。トレーニングセンターでのお別れ式にはじまり、屋外でのイベントを楽しみながら、1961年以来の歴史を持つグラウンドへの別れを惜しました。



青山学院大学のロースクール構想

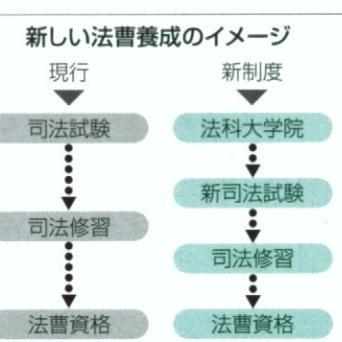


政府の司法制度改革審議会が提言する「ロースクール（法科大学院）構想」とは、“一発勝負”だった従来の司法試験制度を全面的に見直し、受験前から一貫した、かつ実践的な専門家教育を行って、将来の法曹人口の大幅増員に備えようとするものです。将法學部長・法學研究科長 来に向けた司法制度改革の中で、質を保ち

山崎敏彦 教授 ながら、法曹人口を大幅に増やすための切り札とも位置付けられています。つまりロースクール構想は、単に法学教育の仕組みが変わるということではなく、これから社会全体の枠組みを作る重要な役割を担っているといえるでしょう。

2005年に開始される予定の新司法試験制度では、裁判官、検事、弁護士など、法曹を目指す人は、大学卒業後に修業年限が2~3年間のロースクールに進学。ゼミ方式を主体とした実践的な教育を受け、司法試験は原則的にロースクール修了後に受験することになります（図参照）。受験回数は3回程度に絞られる予定で、ロースクールでは修了者の7~8割程度が新しい司法試験に合格できるレベルになる教育を行います。また、大学法学部出身者に限らず、他学部出身者や社会人を受け入れることも、この構想では大きな特色となっています。

全国の法学部を有する大学がロースクール設立に向けた模索を行っている現在、青山学院大学でも本格的な動きが始まっています。そこで法学部を中心としたロースクールへの取り組みと展望について、山崎敏彦法學部長・法學研究科長に伺ってみました。



——なぜ今、「ロースクール」なのでしょう？

山崎 現在、わが国では、グローバリゼーション、そして規制緩和、地方分権などのさまざまな改革が進み、今後の社会では今以上に法の支配が求められることになるでしょう。法サービスが多様化・拡大化するとともに、国民の司法参加をはじめ生活者と法の距離が今以上に縮まっていく…、いわば社会全体が“法化”していく、といってもいいかもしれません。新しい司法試験制度、そしてロースクール構想は、こうした司法の役割が増大する将来に向けて、それを支える人的基盤の育成を目的としています。

——青山学院大学でのロースクール設立に向けた取り組みは、これまでどのように進められてきたのでしょうか。

山崎 1999年から2000年にかけて、全国の法学部を持つ国公私立大学において、ロースクールをめぐるシンポジウムが開催されました。本学では、そのシンポジウムの成果を受け、まず、法学部内に個々の問題を検討するワーキンググループを設置し、さまざまな情報収集、他大学との情報・意見交換、学内への情報提供、検討会（ミニシンポジウム）開催などの活動を行ってきました。ここでは、法曹教育の将来を担う30~40代の若手の教員が精力的に活動してくれた

ことが印象に残っています。その後ワーキンググループは「法科大学院設置準備委員会」と形を変え、法科大学院問題検討会も設けられ、現在、カリキュラムや教育システム、教員スタッフなどの検討に入っています。

——カリキュラムや教育システムは、どのようなものになるのですか。

山崎 設置基準が明らかになっていませんので、まだはっきりしたことはお答えできません。ただ、“良き法律家とは何か？”という問題をじっくり考えながら、カリキュラムと教育システムを考えていくつもりです。特に青山学院大学の場合、“地の塩、世の光”という言葉に表されるキリスト教的な奉仕の精神を備えた人材、公のために正義感を持って働く人材を養成したいと思っています。同時に“英語の青山”的伝統を生かしながら、グローバルな舞台で活躍できる人材を多く育成していきたいですね。たとえば社会性や法律実務を前提にした、ロースクールならではの英語教育のプログラムを作りたい。海外のNPOなどで、弱者の味方として活躍する…、本学から、そんな法律のプロを育てることができたら素晴らしいと思いませんか？いずれにしても他大学と似たり寄ったりではなく、本学としての個性を発揮したロースクールを考えていきたいと思っています。

——現在、ロースクールでの教育について、日弁連や東京の弁護士会とも密接なコンタクトを取り、協力関係を築いているそうですね。

山崎 ええ、実践的な教育を行うロースクールの教育は、法の現場で活躍する有能な実務家で、しかも後進を育てる意欲を持った方々の協力なしには考えられません。実務家と、私たち研究者のコラボレーションが、ロースクール教育の重要な要素なのです。ちなみに、法学部では、実務家の協力のもとで来年からロースクールを先取りした演習を正規の科目として開講することを考えています。また、本学の卒業生で法律家として活躍されている方からの支援も受けています。

——ロースクール設立に向けた今後の展望をお聞かせください。

山崎 新しいことに挑戦し、自らを変えていくことは難しい…。私たち法学部教員は今、そんな困難と直面しています。しかし、大きな時代の流れに逆らうことはできません。ロースクール設立を法学部にとって一つのチャンスとして捉え、あくまで前向きに取り組んでいきたいと考えています。同時に従来の法学部・法學研究科が果してきた役割も見直し、ロースクールとどのように共存していくかも考えいかなければなりません。課題はまだ山積ですが、幸い法人本部や大学執行部からもロースクール設立に前向きなお話を伺っておりますし、学生の父母の方々の関心も高まっています。そうした期待をわれわれのエネルギーにして、それに十分応えられるように、今後は法学部が一丸となって構想をまとめていきたいと考えています。また、ロースクールは、他学部からの進学も可能ですし、社会人の方にも門戸が開かれています。つまり、法学部だけの問題ではありません。

今後、青山学院大学らしいロースクールとはどんなもののかを、大学全体で議論していく場を作っていくとも思っています。



文学部に転学科制度を導入

文学部では、2001年度から転学科制度を導入しました。2001年度入学の文学部(昼間部・第二部)1年生から適用されますので、詳細は教務課でお尋ねください。

毎年、入学してから進路についての悩みを持つ学生が少なからず見受けられます。大きく分けて2つのケースがあります。ひとつは、入学試験を受ける段階で目標を明確に持たずにいて、幸か不幸か合格してしまい、入学後何をしてよいのか迷うケースです。この場合、せっかく新入学生になったにも拘わらず、授業には身が入らず、徒然に日を過ごしてしまうことになります。こういう学生が、もし入学後数箇月で自分の興味の対象を見出し得たら、そしてその対象が同じ文学部内にあったら、転学科によって目標の確かな学生生活を送ることができます。

もうひとつは、勉学意欲を十分に持って勉強しているうちに、自分の興味の対象が広がり、別な分野により強く惹かれていくケースです。この場合、入学の際の学科に身を置いたままでもある程度意欲は充たされますが、欲求不満に陥ることは否めないでしょう。この場合も、もし同じ文学部内の他学科に転じることで解決するのでしたら、転学科制度を活用すればよいのです。

こういう制度を設けたのは、勉学意欲が湧かずには退学してしまう人、あるいは他大学の他学科を受け直す人が毎年何人かいるからです。せっかく文学部の各学科に入学するのですから、楽しく学生生活を送り、満足して卒業して行っていただきたいというのが、文学部の願いです。理想を言

えば、入学前から確たる目標を持ち、希望学科に入学していただきたいのです。したがって、この制度は気まぐれに活用する性質のものではありません。真剣に進路について考え、悩む学生に道を開こうというものです。

この制度を導入する際、一つの懸念を抱いたのは事実です。それは、転学科制度を見越してとりあえず合格できる学科に入っておこうという学生が出てこないかということです。しかし、それは考えないことにしました。そう考えて入学した後、転学科を試みるにはかなりエネルギーを要するでしょうし、転学科試験で面接をすれば、ある程度真意を見抜くことは可能だと考えるからです。それに、何より学生諸君を信じることから、文学部の教育は始まるのです。

いずれは、転学部にまでこの制度は拡大するかも知れません。そうなれば、もっと選択の幅は広がります。入学後に進路についての悩みを抱く学生諸君に、少しでも救いの手を差し伸べようというのがこの制度の趣旨であることを、是非理解して頂きたいと思います。(文学部長 武藤元昭記)

文学部の転学科制度は、2001年度以降入学者から適用されます。募集人員は各学科とも若干名。出願資格・試験科目等は学科により異なるため確認してください。出願期間は2001年12月18日(火)・19(水)の2日間で19日郵送必着とします。試験日および試験会場は2002年2月8日(金)青山キャンパスにて。合格発表は2月20日(水)問い合わせ先:学務部教務課 03-3409-8111(代)

2001年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部に所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。2001年度は、青山キャンパス(6月20日(水))において各キャンパス合同で授与式を開催しました。

また、青山学院大学大学院給付奨学金は、本学大学院に在籍する学生のうち、学業成績、人物とも極めて優秀と認められる者に対して学資金の給付を行うことにより、将来、社会及び文化の発展向上に寄与する人材の育成に資することを目的としています。

給付奨学金

教育学科／酒井しのぶ 英米文学科
 ／羽生修子、村尾友美 フランス文学科
 ／舞木志乃 日本文学科／中村
 紘理子 史学科／水野由香 経済学科
 ／西脇久美子、妹尾奈津子、伊藤聰子 私法学科／佐藤絢音、原口香代
 子 公法学科／瀧谷美穂 経営学科／内海翠、廣田文、吉田晋 国際政治学科
 ／矢澤亜紀、眞鍋絵李葉 国際経済学科／丸山夏名美 機械工学科／原謙介 電
 気電子工学科／天野清貴 経営工学科／森銅真一朗 第二部教育学科／内田
 佳代 第二部英米文学科／石橋聖征、飯塚景子 第二部経済学科／小島彰、加藤
 洋明、駒形奈津 第二部経営学科／橘高朋子、大田和佳子、黒江純子

大学院給付奨学金

英米文学専攻／内田有紀 史学専攻／水野京子 経済学専攻／岩崎隆大、田中
 ひとみ 私法専攻／本多悟史 公法専攻／吉田美奈子 経営学専攻／桑原三佳、



授与式(青山キャンパス)

石塚貴広 国際経営学専攻／有村治子 国際コミュニケーション専攻／早川達夫 国際マネジメント専攻／毛木淳一郎、スツティプラバー・ニラニシ 機械工学専攻／ヴェンキエヴィッチ・クリストフ 物理学専攻／佐々木智生
外国人留学生給付奨学金

日本文学科／李希涓 史学科／梁禎允 経済学科／劉曉莉、曹勇、奕荳 経営学科／鄭妍 國際経営学科／周欣亞、陳沅妃

学業奨励賞

教育学科／古宮美杉、高澤香、高津香織、吉田幸代、石岡緒巳、山道絵美 英米文学科／浅見小夜歌、石原ふみ、杉山浩子、串山紗弥可、隈部美里、櫻田悠子、望月光子、堂真理子、松井知子、松本暁美 フランス文学科／新津美緒、粕谷みゆき、西野紗知、山本幸代 日本文学科／丸小山留美、大野那智、佐藤瑞恵、鈴木晶子 史学科／野川夢美、池田彩、西前英輝、原浩史 経済学科／青柳雄介、石本裕樹、岩波美智子、小林美紗希、平位史絵、岡本源、小出純子、鳥海貴裕、丸尾尚子、山村真由子、秋里有美、大井若子、莊子直樹、西川公一郎、藤野正司 私法学科／渥美香織、菅沼貴奈、杉田一博、鶴田真貴子、河島美帆、佐久間宏和、島田知恵、鈴木美和、成川淳之、五十子容子、大木さち恵 公法学科／田村貴行、定森陽、増田優太、宮澤良太 経営学科／庄田知代、御代田芽衣子、森田喬之、吉村恵里子、林綺怡、門田奈巳、神戸綾、上妻幹朋、添田真希、永峯英行、鈴木豪、富田由香里、前島杏子、松本ひとみ、和田愛美 國際政治学科／稻毛美奈、山崎寿美子、岩野飛鳥、 國際経済学科／板倉京平、松澤勇樹、川島美由紀 國際経営学科／久保田彩、榎本忠行、大原奈那子 物理学科／川島健司、笛田啓太、堀金和正 化学科／刀川夏詩子、中村真理、萩原久美子 機械工学科／岩井理樹、中村哲也 電気電子工学科／沖本浩二、小島亜樹、武田亜希 経営工学科／春間卓、三平裕士 機械創造工学科／法嶋昭統 経営システム工学科／菅原利恵 情報テクノロジー学科／星埜雅子 第二部教育学科／清水倫、酒井敬子、高三佳子 第二部英米文学科／和泉澤真弓、藤村あさ子、赤堀真由美、渡部淳子、清水愛佳、原田国子 第二部経済学科／植杉真行、工藤直人、篠崎友子、赤羽直祐、岩屋光洋、菊地隆、塙本美恵、高尾しのぶ、高田看子 第二部経営学科／河西明子、北澤由美、赤山千寿恵、雅楽川佳子、石山綾子、吉野由美

経済学部創立50周年シンポジウム



オックスフォード大学
ナフィールド・カレッジ学長
サー・トニー・アトキンソン教授

一昨年、創立50周年を迎えた経済学部では、これを記念する行事を継続的に企画して、経済学部の活動を活性化とともに、私たちの教育研究に対する貢献を社会的にも公開することとしています。その活動の一環として、去る6月20日(水)、「経済厚生と貧困」問題の世界的権威である、英国オックスフォード大学ナフィールド・カレッジ学長サー・トニー・アトキンソン教授をお招きし、内閣府経済社会総合研究所およびブリティッシュ・カウンシルの後援を得て、シンポジウムを開催しました。

アトキンソン教授はたびたびノーベル賞候補者として名前が挙げられる研究者で、昨年ナイトに叙せられたため、正式にはアンソニー・アトキンソン教授ではなく「サー・トニー」と呼ばれるようになったとのことです。シンポジウムにおいてもそのように案内をしましたが、事情を知らない参加者の方からは、肩書きに関していくつかの質問が寄せられました。ここで回答しておくことに致します。

シンポジウムには学外の研究者、大学院生も含めて150名程度の方の参加を得ることができました。総合研究所12階の大会議室も満席となり、特に学外からの参加者に高い評価を頂くことができました。

シンポジウムは経済学部の松下正弘教授を座長とし、すべて英語で行われました。開始までの時間、経済学部メディアセンターの設備を利用して助手が作成したアトキンソン教授の略歴紹介の画像は、アトキンソン教授からも「自分の生まれた場所の写真をこれほど鮮明に見たのは初めてでいい経験をした」との感謝を貰うほど、よくできたものでした。

シンポジウムは、アトキンソン教授のキーノート・レクチャー：“Economic Performance and Social Justice”を軸として、それに答える形で「日本の社会保障改革—イギリスの経験を踏まえて—」(中村まさる 経済学部助教授)および、「日本の所得分布統計」(美添泰人 経済学部長)というふたつの講演としました。会場には東京周辺の主要大学、研究機関から著名な研究者が参加していましたこともあり、講演に続く質疑応答でも活発な議論が続きました。

特に、アトキンソン教授が講演において利用したわが国の所得分布の不平等の計測に関しては、会場の官庁統計担当者から最近の正確な数値の提供もあり「講演者の方が情報受取るとは珍しいシンポジウムだ」というアトキンソン教授の冗談に会場も沸きました。

シンポジウムの後のレセプションは、本学の教員の他、シンポジウムの出席者の一部の参加も得て、和やか、かつ学問的な雰囲気で開催されました。特に後援を頂いた内閣府からは多忙なスケジュールの合い間をぬってシンポジウムとレセプションの両方に経済社会総合研究所所長の浜田宏一先生の出席を頂くことができました。20数年ぶりに再会できたというアトキンソン教授と浜田研究所長からは、今回のシンポジウムに関する感謝の言葉を頂戴しました。(経済学部長 美添泰人 記)

以上のシンポジウムに関しては経済学部のホームページ(<http://www.econ.aoyama.ac.jp/>)に当日の報告の要旨も掲載されていますので、ご覧ください。

青学ベンチャー講演会開催



国際政治経済学部
港 徹雄 教授

2001年4月に青学ベンチャー・ネットワークが設立され、第1回のシンポジウム「青学発ベンチャー：若き起業家達の挑戦」が6月22日(金)に大学主催で開催されました。パネラーには史上 最年少の26歳で上場(東証マザーズ)企業社長になった藤田晋氏('97年経営学部卒[(株)サイバーエイジェント代表取締役社長])、大学在学中に「電腦隊」を設立しモバイル事業の先駆者をなした川邊健太郎氏('98年法学部卒[ヤフー(株)プロデューサー])を迎え、コーディネータは電気通信大学の客員助教授で、起業家支援や産学協同のエキスパートである竹内利明氏('76年理工学部卒[(有)陽明エンジニアリング社長])が務めました。当時は約400人の聴衆が集まり、主催者を代表して半田正夫学長が挨拶した後、パネラー討論が行われました。

まず藤田氏がなぜ学生時代に事業家を目指すようになったのか、卒業時に多くの選択肢の中から、なぜベンチャー企業を就職先に選んだのかを説明し、そこで自己に対する先行投資と考え懸命に働いたこと、さらに就職1年後にインターネット広告に着目し、起業に至った経緯を具体的に語りました。この中で、明確な目標設定が重要であり、強い意思を持ちハードワークに耐

えることができれば夢を実現できると強調され、株式上場後には株価低迷など厳しい面もあるが、事業を行うことで世の中にインパクトを与えていいるという実感があり、エキサイティングでたまらなく面白いと述べられました。

他方、川邊氏は「楽しい仲間と楽しい仕事をする」ことをモットーにしており、インターネット時代の到来を感じ、大学の友人と「電腦隊」を結成したこと。そこで人材をどのように確保し、経営学の知識をどのように獲得したのかを語られました。また、パソコン関連事業からまだ市場の見えないモバイル事業にいち早く転換した経緯を説明。その後、事業の国際展開を考え5年前に40万円で設立した電腦隊を54億円でヤフーに売却する決断をしたこと。初等部から青学で学んで「門を叩け、そうすれば開かれるであろう」という聖句がチャレンジする人生の精神的支柱になっていると話を結びました。2人の若い起業家に共通するのは明確なビジョン、時代の流れを鋭敏に察知する洞察力と環境変化への柔軟な適応です。在学生を中心とする聴衆は同世代の起業家の話に終始熱心に耳を傾け、



活発な質問がなされ、終了後も熱気が冷めずパネラーを取り囲んでいる姿が見られました。

(港 徹雄：国際政治経済学部教授、日本中小企業学会会長、青学ベンチャーネットワーク代表顧問)

2001年度オープンキャンパス—10,000人が来場—

2001年度オープンキャンパスは、例年どおり7月および9月の計2回開催されました。

7月21日(土)に開催されたオープンキャンパスは、都内の主要私立大学と同日開催であったこと、また、朝からの猛暑にもかかわらず、昨年を上回る入場者数を記録。青山キャンパス6,012名(昨年度5,036名)、世田谷キャンパス631名(同465名)と、両キャンパスとも過去最高の入場者数となりました。

また、9月8日(土)に青山キャンパスで開催されたオープンキャンパス(全学部対象)には、3,420名(同2,944名)が来場。こちらも過去最高の記録を更新しました。開催2日間の総入場者数は10,063名(同8,445名)となり、初めて1万人の大台を記録いたしました。

本学がオープンキャンパスをスタートして9年目となる本年度は、従来の企画に加えて相模原新キャンパスのガイダンスやオルガンコンサート、文化連合会「アナウンス研究会」の協力による合格体験トーカライブな



留学生説明会



学内を見学する来場者



「歓迎礼拝」ではイーゴーがお出迎え



ボランティア学生

ど、新しい企画を実施。また、昨年度同様、学生団体の「吹奏楽バントワーリング部」「応援団」「チアリーディング部」によるアトラクションや、大学マスク「イーゴー」を普及するための学生団体「AMU-2000」の協力により等身大のイーゴーが登場し、多くの受験生との記念撮影に応じました。

さらに、各キャンパスの在学生にボランティア参加を呼びかけたところ、約70名の学生から申し出があり、受付、案内、記念品贈呈係などの業務に協力していただきました。来場した高校生・受験生も多くの在学生と触れ合えたことで、本学に対していっそう親近感を抱いた様子でした。

7月7日(土)には社会人向け入学広報の一環として、青山キャンパスにおいて社会人を対象とするオープンキャンパスも開催。入場者数は351名(昨年度146名)となり、社会人の向学心の高まりを表す結果となりました。こちらも多くの方々に本学を知っていただくためのより良い機会になりました。

2002年度一般入学試験日程

入学試験は、全学部・学科とも、「青山キャンパス」で試験を実施します。

一般入学試験要項(願書)は11月上旬より、全国の有名書店にて販売します。

なお、書店で入手できない場合は、ライオン企画/0120-60-8411でお申し込みください。

●大学院入試に関する問い合わせ先●

文学研究科/経済学研究科/法学研究科/経営学研究科/国際政治経済学研究科/国際マネジメント研究科

〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25 青山学院大学大学院事務室
TEL 03-3409-8111(代表) 03-3409-7831(ダイヤルイン)

理工学研究科

〒157-8572 世田谷区千歳台6-16-1 青山学院大学理工学部教務課
TEL 03-5384-1111(代表)

※入試日程等詳細については本学ホームページ〈入試情報〉
<http://www.aoyama.ac.jp/>をご覧ください。

学部・学科・コース・方式	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続日
理 工 学 部	1/8(火)~1/28(月) 郵送受付に限ります。 (締切日消印有効)	2/10(日)	2/17(日)	2/25(月)~2/26(火)
		2/11(月)		
文 学 部	教育学科(B方式) 英米文学科(A方式) フランス文学科 日本文学科(B方式) 史学科 心理学科 夜間主コース 教育学科(A方式)	2/13(水)	2/20(水)	2/27(水)~2/28(木)
経営学部	1/8(火)~2/1(金) 郵送受付に限ります。 (締切日消印有効)	2/15(金)	2/21(木)	2/27(水)~2/28(木)
法学部	2/17(日) 2/18(月) 2/19(火)	2/23(土)	3/1(金)~3/4(月)	
国際政治経済学部		2/24(日)	3/4(月)~3/5(火)	
経済学部		2/25(月)	3/5(火)~3/6(水)	
文学部第二部	郵送受付(締切日消印有効) 1/8(火)~2/15(金)	2/26(火)	3/3(日)	3/11(月)~3/12(火)
経済学部第二部	窓口受付(青山キャンパス) 2/19(火)に限ります。			
経営学部第二部				

AGU受験相談会のおしらせ

青山祭期間中、広報入試センターでは大学受験に関する個別相談、大学紹介ビデオ上映などを行います。

《期日》11月3日(土)・4日(日)

《場所》青山キャンパス

《時間》13:00~16:30

(一般入学試験要項[願書]の無料配布はしておりません。)



青山学院大学後援会報告

さる7月16日(月)、青山学院大学後援会評議員会がアイビーホール青学会館にて開催されました。同後援会は、大学と家庭との連絡を密にし、教育研究に必要な事業を援助する目的をもって設立された支援団体であり、在学生のご父母等の保証人によって構成されております。

主な事業は、下記の大学後援会予決算に示されているとおり、学友会活動補助等の学生活動に対する援助、首都圏並びに地区別に開催される父母懇談会の開催諸経費から、職員の研修・教職員の福利厚生に対する支援等その内容は多岐にわたります。

評議員会(総会)は毎年1回7月に開催され、前年度の事業報告及び決算報告、当年度の事業計画及び予算案が審議され、併せて役員

2000(平成12)年度 大学後援会決算報告書

収入の部 (単位 円)

科 目	予 算	決 算	差 異
前 期 練 越 金	18,926,174	18,926,174	0
会 費 収 入	105,960,000	107,433,000	△ 1,473,000
利 息 収 入	30,000	52,732	△ 22,732
合 計	124,916,174	126,411,906	△ 1,495,732

支出の部 (単位 円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生活動関係			
学 友 会 活 動 补 助	22,500,000	22,500,000	0
学友会活動指導補助	13,500,000	13,290,000	210,000
保 険 料	18,003,750	18,003,750	0
大 学 行 事 补 助	8,000,000	5,063,156	2,936,844
アドバイザー・グループ会合費補助	1,100,000	1,120,000	△ 20,000
セミナー活動等補助	1,500,000	500,000	1,000,000
構内環境整備補助	2,000,000	899,325	1,100,675
奨 勵 金	1,000,000	450,000	550,000
後援会行事関係			
父 母 懇 談 会 費	36,300,000	31,718,345	4,581,655
印 刷 費	200,000	110,250	89,750
旅 費 交 通 費	100,000	67,046	32,954
会 議 費	2,000,000	1,433,572	566,428
消 耗 品 費	100,000	0	100,000
通 信 費	100,000	23,050	76,950
教職員関係他			
職 員 研 修 費 补 助	5,500,000	5,500,000	0
教職員福利厚生費補助	5,000,000	3,021,503	1,978,497
慶 弔 費	1,200,000	1,270,000	△ 70,000
雜 費	200,000	0	200,000
予 備 費	1,000,000	0	1,000,000
支 出 計	119,303,750	104,969,997	14,333,753
次 期 練 越 金	5,612,424	21,441,909	△ 15,829,485
合 計	124,916,174	126,411,906	△ 1,495,732

の選出が行われます。今回は、新会長に水谷正史氏(日商岩井(株)専務執行役員、金属カンパニー・プレジデント)、副会長に岩垂秀一氏(萬有製薬(株)常務取締役臨床医薬研究所長)、新副会長に木村恵司氏(三菱地所(株)取締役企画本部経営企画部長)をはじめ、新任・継続あわせて91名の役員が選出されました。

評議員会終了後、引き続き、青学会館において懇談会が開かれ、評議員会に出席された役員の方々、本学院長並びに学長ほか大学教職員との交歓の一時が持たれました。



2001(平成13)年度 大学後援会予算

収入の部 (単位 円)

科 目	金 額	摘 要
前 期 練 越 金	21,441,909	会費收入内訳
会 費 収 入	105,600,000	第1部 @6,000円×15,840名=95,040,000円
利 息 収 入	30,000	第2部 @3,000円× 3,520名=10,560,000円
合 計	127,071,909	

支出の部 (単位 円)

科 目	金 額	摘 要
学生活動関係		
学 友 会 活 動 补 助	24,500,000	学友会クラブ活動補助他
学友会活動指導補助	13,500,000	学友会指導者・監督への謝礼(交通費一部負担額)他
保 険 料	8,000,000	大学傷害保険
大 学 行 事 补 助	6,000,000	大学行事補助
アドバイザー・グループ会合費補助	1,100,000	アドバイザー・グループ会合費補助
セミナー活動等補助	1,500,000	セミナー活動等補助他
構内環境整備補助	10,000,000	構内環境整備補助
奨 勵 金	1,500,000	褒美金
後援会行事関係		
父 母 懇 論 会 費	38,000,000	首都圏及び地区別父母懇談会開催諸費用
印 刷 費	200,000	役員名簿・決算報告書印刷費
旅 費 交 通 費	100,000	事務連絡交通費
会 議 費	2,000,000	評議員会・懇談会費用
消 耗 品 費	100,000	事務用消耗品
通 信 費	100,000	役員会・評議員会通信費
教職員関係他		
職 員 研 修 費 补 助	5,500,000	職員研修費へ補助
教職員福利厚生費補助	4,000,000	教職員同好会補助他
慶 弔 費	1,200,000	教職員等の慶弔費用、学友会関係祝金
雜 費	200,000	各校友会支部との懇親会補助他
予 備 費	1,000,000	
支 出 計	118,500,000	
次 期 練 越 金	8,571,909	
合 計	127,071,909	

大学同窓祭開催報告

9月23日(土)、素晴らしい秋晴れの空の下、第8回青山学院大学同窓祭を開催。今年は、ガウチャー記念礼拝堂での初めての礼拝を行ったほか、和泉元彌さん、渡哲也さん、中田ひろしさんらの校友の出演、国際ジャーナリスト・日高義樹氏のタイムリーな講演など盛りだくさんのプログラムで、参加者に楽しい1日を過ごして頂きました。田中孝一実行委員長のもと、160余名の実行委員会メンバーが一丸となって準備に取り組んだ結果、約4,000人という今までにない多くの参加者を集め、また晴天にも恵まれ大成功の同窓祭となりました。夕方6時からは懇親パーティーも開催され、大勢の校友とその家族の方で大変な賑わいを見せる中、閉会しました。

新役職員紹介

経営学部長
長谷川 信 教授



長谷川信教授は2001年9月30日をもって任期満了のところ、次期経営学部長に同氏が再任された。任期は2001年10月1日より2003年3月31日まで。大学院経営学研究科長を兼務。

長谷川信教授は1951年生まれ。1974年に東京大学経済学部を卒業、1981年同大学院経済学研究科博士課程単位取得済退学。その後、静岡大学教育学部専任講師、助教授を経て、1994年青山学院大学助教授に就任。1995年教授に昇任。1999年に経営学部長代行、同大学院研究科長を代行する。県史編さん等の社会的活動のかたわら、経営史学会、土地制度史学会、日本経営学会に属し、社会経済史学会の評議員をつとめる。専門は日本経営史、講義は経営史を担当。

報告・お知らせ

2001年度就職関係行事

卒業後の進路を決定する中で、就職を選ぶ皆さんには、単に内定企業を獲得することではなく、どんな仕事で世のため人のために働くのか、と考えて欲しいのです。そのためには自分の生き方に始まり、どんな業界や企業や仕事があるのかを知らなければなりません。まず知る、そして選ぶ、という順序です。厳しいと言われる就職ですが、就職部は皆さんの就職活動を精一杯支援します。(就職部事務部長記)



行事	対象者	日程	時間	場所	備考
青山キャンパス	業界セミナー		10月～12月	詳細は掲示板を参照のこと	企業研究を始める前に、各業界ごとの概要や実態、将来性などについて、OB・OGを招いてのセミナー
		10/24(水)	16:20～17:50	910教室	アパレル業界についてのセミナー
		11/7(水)	16:20～17:50	910教室	外資系企業についてのセミナー
		11/10(土)	10:30～12:00	1225教室	女子学生就職セミナー(OGによるパネルディスカッション)
		11/14(水)	16:20～17:50	931教室	Uターン就職についてのセミナー
	テーマ別就職セミナー				
	模擬試験	学部3年生	11/21(水)	15:00～16:30	多くの企業が採用しているSPIの模擬試験(有料)
			11/24(土)	10:30～12:00	
			2/7(木)	15:00～16:30	
			11/21(水)	10:30～12:00	
			12/1(土)	10:30～12:00	
SPI試験解説	SPI模擬試験受験者		11/21(水)	16:45～17:45	
			11/24(土)	13:00～14:00	
エントリーシート対策講座	学部3年生	11/12～15(月～木)	10:30～14:30	940教室	
		2/6(水)	10:30～12:00	1224教室他	企業独自の応募用紙であるエントリーシート対策の講義と実技(有料)
面接対策講座	学部3年生	2/6(水)	13:00～14:30	未定	採用試験のなかでは最も重要視されている面接試験の対策講座(有料)
			15:30～17:00		
		2/7(木)	10:30～12:00		
		3/2(土)・5(火)	10:30～12:00		
公務員採用説明会		11/27(火)・28(水)	未定	15405	各種公務員の採用担当者による説明会
公務員内定者との懇談会		11/28(水)	14:45～16:15	15406	公務員に内定した4年生との懇談会
公務員ガイドンス	1・2年生	11/28(水)	16:20～17:50		公務員の仕事、採用試験についての説明会
学内企業セミナー	学部3年生	2月中旬～3月上旬	未定		企業採用担当者による会社概要、仕事内容、採用方針等についての企業説明会
厚木キャンパス	4年生と進路を語る懇談会	10/24(水)	13:10～14:40	K101	卒業後の進路が決定した4年生との懇談会
	公務員ガイドンス	10/24(水)	15:00～16:30		
	進路就職ガイドンス	12/12(水)	13:10～14:40		
	進路就職相談会	12/3(月)	12:30～13:10		
		12/3(月)・6(木)・7(金)	10:00～17:00	K102	卒業後の進路を考えるガイドンス
世田谷キャンパス	東京警視庁説明会	全学年	10/24(水)	14:40～15:40	4305教室
	防衛庁説明会	全学年	10/24(水)	15:45～16:45	4305教室
	就職適性検査結果説明会	学部3年・院1年	11/7(水)	14:40～16:10	4307教室
	一般常識対策テスト(第1回)	全学年	11/14(水)	14:40～16:10	4307教室
	SPI模擬テスト	全学年	11/21(水)	14:40～16:10	4307教室
	就職講演会(第2回)	学部3年・院1年	11/28(水)	14:40～16:30	理工礼拝堂
	エントリーシート対策講座(第1回)	学部3年・院1年	12/5(水)	14:40～16:10	理工礼拝堂
	面接対策講座(第1回)	学部3年・院1年	12/12(水)	14:40～16:10	4307教室
	就職活動報告会	全学年	12/19(水)	15:00～16:00	未定
	就職ガイドンス(第2回)	学部3年・院1年	12/19(水)	16:15～17:00	理工礼拝堂
	一般常識対策テスト(第2回)	全学年	1/10(木)	14:45～16:15	4307教室
	面接対策講座(第2回)	学部3年・院1年	1/16(水)	14:40～16:10	4307教室
	エントリーシート対策講座(第2回)	学部3年・院1年	3月上旬	11:00～12:30	4307教室
	面接対策講座(第3回)	学部3年・院1年	3月上旬	13:30～15:30	4307教室

*追加・変更等もありますので、掲示板にて確認してください。
※ホームページ(<http://www.aoyama.ac.jp>)に就職関連情報を掲載します。

青山学院大学 フェスティバル in さがみはら

「相模原キャンパス」の建設スタートを機に、“相模原市と青山学院大学の共生”をテーマにイベントを開催します。このイベントにはどなたでも参加でき、入場は無料。開催日時、会場は以下の通りですが、イベント内容については若干の変更や追加を行う場合がありますので予めご了承ください。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

11月10日(土)

相模原市と青山学院大学の共生に向けて

●相模原市産業会館

●13:00～16:30

大学と地域の共生を具体的にディスカッションするイベントです。本学より半田正夫学長と各学部の代表教授が出席し、地域の方々とパネルディスカッション形式で意見交換を行います。CGによる相模原キャンパスの紹介も実施され、終了後、懇親と懇談を兼ねたティーパーティーを予定しています。

12月16日(日)

青山学院大学がやってくる

●ホテルセンチュリー相模大野(ステーションスクエア8F)

●11:00～19:00

地域の方々との親睦を図るイベント。午前中には進学相談会、父母懇談会を行います。午後の開会式の後、音楽系クラブ・サークルの学生によるアトラクションのほか、作家・森村誠一氏のトークショー、軽食パーティーなどを開催。OB資格者による法律・税務・不動産登記相談会も実施する予定です。

「身近になったe-business」

竹田 賢
経営学部助教授



1968年(昭和43年)生まれ。1996年3月青山学院大学理工学研究科経営工学専攻博士後期課程満期退学。本学理工学部経営工学科助手を経て、1999年4月本学経営学部経営学科専任講師に就任、現在同学部助教授、2000年7月博士(工学)の学位を取得。

本講座では誰もが一度は耳にしたことのあるe-businessをテーマに、ビジネスモデル的具体例やIT(情報技術)の明と暗に関する話題の紹介と、実際にコンピュータを操作していくだけ体験学習を通して、「ネットで商売!!」を身近に感じていただくことを主眼とします。

現在の我が国におけるインターネット人口は3,000万人を超えていたとも言われ、場所や時間に関する制約の少ないe-businessは、その市場規模と可能性に大きな期待が寄せられています。折しも今年はブロードバンド元年と言われ、これまでよりも高速な回線(ブロードバンド)を利用したインターネット接続が、比較的安価に実用化されはじめています。携帯電話でのインターネット接続まで視野に入れれば、なるほど電子商取引(Electronic Commerce; EC)の将来はバラ色に見えなくありません。

一方、昨年から聞こえてきたネットバブル崩壊に係わる暗いニュースや、2001年度版中小企業白書でもIT化失敗の企業事例が扱われるなど、e-businessが決して夢の「金のなる木」ではないという見解も浸透しています。また我が国はクレジットカード大国アメリカに比べ、インターネット通販の代金決済に対する抵抗感が強い点が指摘され、さらにネット上の商取引に係わるトラブルが実際に生じています。「見て触れて楽しむ娯楽としての(?)ショッピング」に、B2C(Business to Consumer, B to C; 消費者向け電子商取引)はどこまで対抗していくことができるのでしょうか。

こうした問題意識を踏まえて、第1回講義「e-businessの現在」では電子商取引の類型を整理した後、アメリカにおいてインターネットを先駆的に活用して成功した企業事例を紹介しました。たとえば、世界中の人と企業をインテグレートし、ユーザダイレクトなビジネスを展開しているデルコンピュータ。グローバルな巨大物流網を構築し、自らの企画力や調達力を活かして

消費者に安く、良質な商品を提供しているウォルマート。顧客情報を巧みに利用する書籍のインターネット販売老舗、アマゾン・ドット・コム。そして、NECやソニーなど異業種8社と組んで本格的なネット小売時代への布石を打ったセブンドリーム・ドット・コムなど、インターネットビジネスを展開しているさまざまな業種・業態の企業を取り上げて、e-businessの盛衰について解説しました。同時に、企業活動のグローバル化、デジタル化知識の高速伝達が実現されたバーチャルな世界における、企業間ビジネスプロセスの融合、企業組織構造の変化、事業の選択と集中によるコア・コンピタンス経営など、ITが経済・社会構造に与えた影響についても、分かりやすい言葉に置き換えて展望しました。

第2回「e-businessを支えるWeb技術」では、この後の実習で必要となるインターネット技術の基本的な理解と、Webコンピューティングの進展によって可能となったECソリューションが、具体的にどのような仕組みで実現されているのかを概説しました。C/SシステムとかTCP/IP、HTTPとかHTML、CGI、Perlなどなど。見たり聞いたりしたような気もするけれど、ハッキリとは何なのか分からぬ。アルファベットの略語で表示されることの多いコンピュータ用語は、それだけで難しそうな印象があります。ここでは、初めてこちらで配付するファイルを実際に見て、各自のパソコン上で動作させていただいて、「これが○○○○なのです」方式に分かりやすい解説を試みます。厳密な概念や定義を理解することはもちろん大切ですが、躊躇せずにとにかくやってみて、そして分かったつもりになることも、特にネットワーク技術の入門段階では必要なプロセスです。

続く第3、4回「Web shop開設の体験演習(1)(2)」では、すっかり浸透した感のあるインターネット上のお店を題材として、実際に各自で架空のWeb shop開店までのプロセスをな

ぞっていただきながら、そこで利用されている技術の理解を目指します。規模の大小はあるにせよ、Web上で商品を購入したりサービスを予約したりする仕組みは、基本的にこの演習の中で紹介する方法で実現されています。学習後に「そのままネット店主になれる」というわけにはいきませんが、体験を通してe-businessを身近に感じていただけたと思います。

第2回～4回のテーマであるWeb Shopの開設は、インターネット上で顧客と企業の双方を結び付け、顧客主導のビジネスプロセスを構築するために重要な役割を果たすことは言うまでもありません。しかしネット上のビジネスでは、音楽配信など一部商品や予約サービス等を除いて、インターネット上で取引された商品を実際に生産し、顧客が指定した場所、指定された納定期内に遅延なく配送が必要となります。また、ネットオークションなどの個人と個人がWebを介して直接取引するビジネスモデル(C2C)では、確実な商品送受に加えてリスクの少ない決済方法を構築しなければなりません。本講座の最終回となる第5回10/27(土)開催予定「e-business運営実務の基礎」では、バーチャルな世界でのWeb Shopとリアルな世界における生産・物流の諸機能を最適に融合し、顧客サービスの向上と企業収益の確保を同時に実現していく「e-business成功の鍵」について解説します。



このコラムは、「2001年度青山学院大学公開講座」の講演内容を誌上用に編集したもの。

なお、この講座は、9/29(土)～10/27(土)までの毎週土曜日、全5回開かれ、他に荒木万寿夫経営学部専任講師も担当しています。

高校1・2年生のための 新キャンパス説明会

2003年4月に開学する相模原キャンパスに通学する受験生とそのご父母を対象に、新キャンパスの最新情報を伝えします。

日時:2001年11月11日(日) 10:00~17:00

(受付は9:45~16:00まで、予約不要、入退場自由)

新キャンパス説明会:10:30~、14:00~の2回実施

場所:青山キャンパス

内容:新キャンパスプレゼンテーション&コンピューター・グラフィックス映像公開

その他の開催内容(10:00~17:00の間、随時実施)

歓迎礼拝/オルガンコンサート/大学ガイダンス/大学紹介ビデオ上映/個別進学相談/リスニング試験体験/資料閲覧/新キャンパスパネル・模型展示/学生団体によるアトラクション/資料配付(新キャンパスパンフレット、大学紹介パンフレット、クラブサークル紹介冊子等)



スチューデントプラザ



厚生棟より小教室棟を望む



JR横浜線から庭園を望む

〈青山祭〉

今年も、11月3日(土)から5日(月)にかけて青山祭が開催されます。本年度は、今までのカラーとはまた違った青山祭を全学生一丸となって創造していくという願いから、「新生」をテーマとして、準備を進めています。また、11月2日(金)には昨年中止となった前夜祭が2年ぶりに開催されます。



クリスマス・ツリー点火祭

イエス・キリストの降誕を祝うクリスマスまでの4週間を、アドヴェント(待降節)といいます。

その喜びの季節に入ることを心に刻むために、幼稚園から大学院まで青山学院全体がひとつになって行われる礼拝が、クリスマス・ツリー点火祭です。

今年度は11月30日(金)の夕刻に各キャンパスで行われます。一緒に、本当のクリスマスを祝いましょう。



AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人宛に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュースを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AGYAMA」ページも設けてあります。更に「Weekly AGYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内専用パンフレットスタンドにて配布しています。

なお、「AGUニュース」を確実に保証人宛にお届けするため、住所が変更になった場合は、次の窓口で住所変更手続きをお取りください。

青山キャンパス(昼間部)→学生部厚生課
世田谷、厚木、青山キャンパス(第二部)
→各キャンパス学生課

AGUニュースのバックナンバーはこちらでご覧ください。

[AGU News on Web](http://www.aoyama.ac.jp/agunews/)

ガウチャー・メモリアル・ホール PhotoGraph



ガウチャー記念礼拝堂(エントランスホール)▲
ジョン・F・ガウチャー博士の肖像画(1F)►



校友 東郷青児氏の絵画「天使の休日」(3F)▼



▲エスカレーター
◀Executive Meeting Room (13F)

シリーズ大学探訪

③

勝田銀次郎

本多庸一との出会いにより東京英和学校予備学部に入学し、1892(明治25)年卒業。1916(大正5)年、勝田汽船を設立し成功しました。母校愛に燃え、学院の拡張計画募金に応じ、1918(大正7)年高等学部校舎(勝田ホール)および院長館の建築費31万円を寄付。勅撰貴族院議員、衆議院議員を歴任し、のち神戸市長のときに神戸市繁栄の基礎を築き、名市長とうたわれました。

勝田銀次郎
1873~1952
(明治6~昭和27)
愛媛県生まれ

